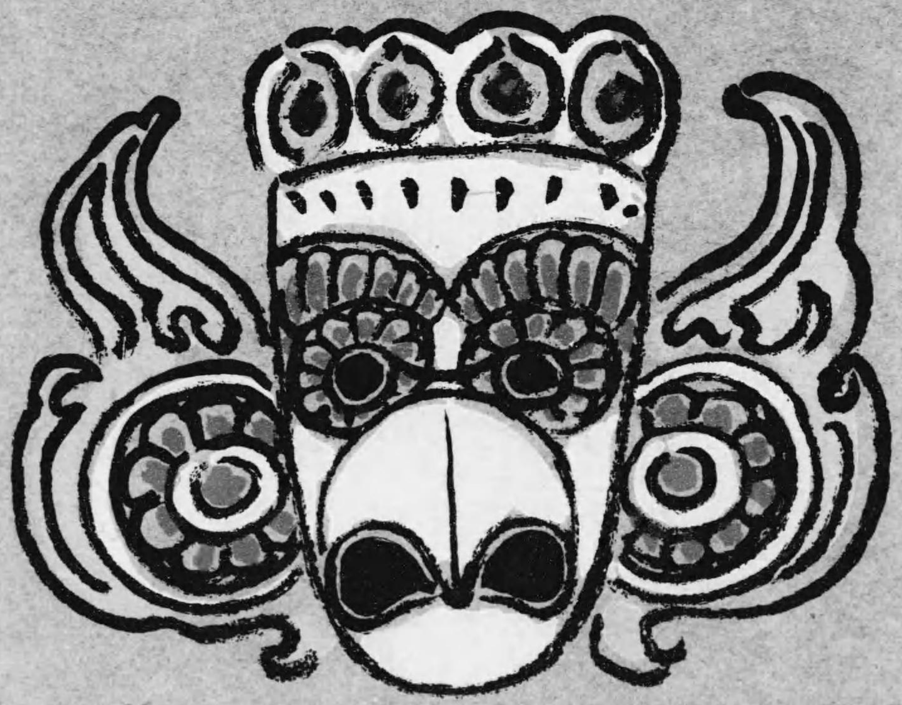
始

印度藝術總覽

A GENERAL VIEW OF INDIAN ARTS



第二卷 第六輯

大正
13. 3. 3

Issued by The Society for Study of Indian Arts
Tokyo

「印度藝術總覽」內容一覽

揭載品所藏家芳名（順序不同）

東京 東京美術學校殿
東京 田島常三殿
東京 正木直彥殿
千葉 成田山新勝寺殿
東京 野生司香雪殿
東京 多賀道吉殿
東京 侯爵細川護立殿
神奈川 津端道彥殿
東京 沼田才治殿
東京 寺崎廣載殿
橫濱 中野觀象殿
東京 小林辨吉殿
東京 青木新太郎殿
東京 日印協會殿
東京 文學博士高楠順次郎殿
神戶 別所幸吉殿
東京 笠松勝義殿
千葉 町田曲江殿
東京 朝井觀波殿
橫濱 矢野美津次殿
東京 堅山南風殿
東京 岡教邃殿
名古屋 大石三千穗殿
印度 タゴール殿
東京 遠山五郎殿
東京 岡田三郎助殿
千葉 桐谷洗鱗殿
東京 前原藤一郎殿
東京 荒井寬方殿
橫濱 井上利正殿
東京 子爵小笠原長生殿
東京 勝田蕉琴殿
名古屋 橘瑞超殿
京都 石崎光瑤殿
東京 山上曹源殿
東京 櫻井義肇殿
東京 原文次郎殿
東京 郷倉千靱殿
東京 長谷川昇殿

第二巻第一輯乃至第二巻第六輯目次

第二巻第一輯

一、白衣美人	莫臥兒朝繪畫	實物大	彩色木版	桐谷洗鱗君藏
二、阿邏藍仙人訪問	犍陀羅發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
三、印度更紗（一）	ラクノ產		彩色木版	野生司香雪君藏
四、耆那教本尊	細密石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
五、水壺	古代鑄金	實物大	寫眞版	桐谷洗鱗君藏

第二巻第二輯

六、女人聽法	アジャンタ壁畫		彩色木版	井上利正君模寫
七、印度教神溼婆	白檀彫刻	實物大	寫眞版	桐谷洗鱗君藏
八、王子	莫臥兒朝繪畫	實物大	寫眞版	桐谷洗鱗君藏
九、水瓶	彼斯古代鑄金		寫眞版	桐谷洗鱗君藏
一〇、施無畏印佛陀	鹿野苑發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏

第二巻第三輯

一一、神話	莫臥兒朝繪畫	實物大	彩色木版	桐谷洗鱗君藏
一二、悉達多太子出城	犍陀羅發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
一三、印度更紗（二）	ラクノ產		彩色木版	桐谷洗鱗君藏
一四、女人奉燈器	古代彫金	實物大	寫眞版	桐谷洗鱗君藏
一五、菩薩	佛陀伽耶發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏

第二巻第四輯

一六、羈旅	彼斯古畫	實物大	彩色木版	桐谷洗鱗君藏
一七、寶冠佛頭	佛陀伽耶發掘石彫		寫眞版	桐谷洗鱗君藏
一八、天童	アジャンタ壁畫		寫眞版	桐谷洗鱗君模寫
一九、阿私陀仙人占相	犍陀羅發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
二〇、輪形水晶壺	ビプラヴアコート發掘		寫眞版	カルカッタ博物館藏

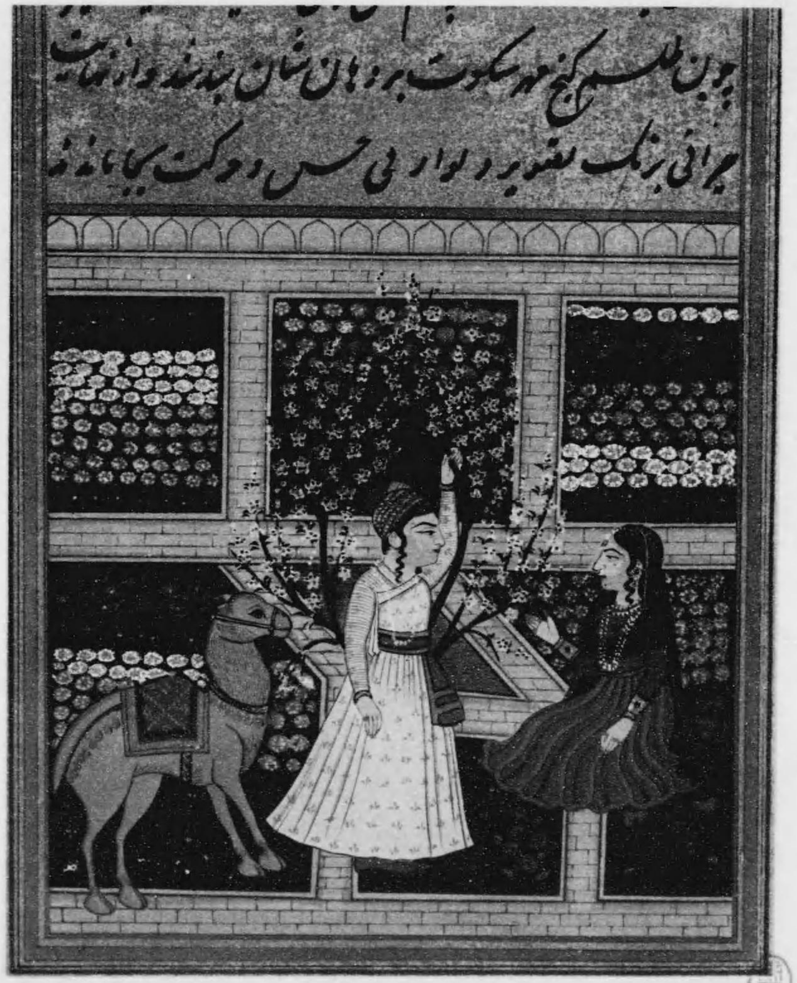
第二巻第五輯

二一、女人奉華	アジャンタ壁畫		彩色木版	桐谷洗鱗君模寫
二二、與願印佛陀	鹿野苑發掘石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
二三、印度更紗（三）	ラクノ產		彩色木版	野生司香雪君藏
二四、輪寶禮拜	バルフート石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
二五、婆羅門僧持鉢 其一	彼斯椰子古代彫刻		寫眞版	桐谷洗鱗君藏

第二巻第六輯

二六、青春	莫臥兒朝繪畫	實物大	彩色木版	桐谷洗鱗君藏
二七、溼婆及波羅和底	エルロラ洞窟石彫		寫眞版	堅山南風君撮影
二八、ガネシア	古代石彫		寫眞版	カルカッタ博物館藏
二九、涅槃像	佛陀伽耶發掘石彫	實物大	寫眞版	桐谷洗鱗君藏
三〇、婆羅門僧持鉢 其二	彼斯椰子古代彫刻		寫眞版	桐谷洗鱗君模寫

大正十二年三月二十日
印度藝術研究會


چون طلسم گنج مهر سکوت بر دهان شان بند شد و از نهایت
حیرانی برنگ تصویر دیوار بی حس و حرکت بجا ماندند

印度藝術叢刊第二卷第二十六　青　春　寶　物　大　莫臥兒朝繪畫　第十六世紀——第十八世紀　關谷洗谷編輯　印度藝術研究會編輯

印度藝術研究會出版　影撮者風南山堅　紀世八第——紀世五第　刻彫窟洞ラ・ヱ　底和羅波及婆湿　七十二第巻二第覽總術藝度印

印度藝術叢第二卷第二十八　カネシア　發掘地未詳　年代未詳　カルカッタ博物館藏　印度藝術研究會版

財團

版寫會究研術藝度印　蔵君諭洗谷桐　紀世五第——業中紀世四第　朝王多闍　摩訶迦耶陀佛　像　槃　涅　九十二第卷二第覽遊術藝度印

印度藝術纏覽第二卷第三十　德國門羅村鉢二　埃子古代彫刻　年代未詳　橋谷氏藏　印度藝術研究會藏版

印度藝術總覽第二卷第六輯目次及說明

第二十六　青春（繪畫）彩色木版　桐谷洗鱗君藏

第十六世紀中葉乃至第十八世紀莫臥兒朝作印度古代叙事詩古書挿畫の一。印度にては古代より有名なるマハバラタ、ラマヤナ等を初めとし、國民的叙事詩非常に多く、之れに依りて國民の品性を陶冶したり。本圖を載する古書も其一に屬し、頗る長篇にして、之れに圖の如き細密なる挿畫數十葉を揷む。而も其繪も文字も全部肉筆の夢らしきものなり。本圖は詩中の主人公たる貴公子と淑女が春爛漫たる園に會して互に物語の端緒を開く所。一種獨特の描法を以て能く其情趣を現はせり。

第二十七　濕婆及波羅和底（石彫）寫眞版　堅山南風君撮影

第五世紀乃至第八世紀頃建造エルロラ洞窟石彫印度教神濕婆(シヴア)と其配偶波羅和底(パールヴアチイ)。エルロラ洞窟は岩をひらきて造られ、其大凹所は長さ二百七十尺、廣さ百五十尺あり。其殿堂、塔、廊廡、門等一個の岩より成り、南印度の代表彫刻にして、世界の一大偉觀と稱せらる。本圖は其殿堂壁面の一部なり。濕婆の說明は本卷第七に在り。其配（第一卷第九參照）は烏摩(ウマー)、波羅和底、其他ヅルガ、カリ、サクチ等種々の名稱の下に崇拜せらる。

第二十八　ガネシア（石彫）寫眞版　カルカッタ博物館藏

發掘地未詳。年代未詳。ガネシアは印度教の福神或は博愛の神として今日も到る處之を尊ぶ。印度教徒の聖市ベナレスにも此立派なる像ありて、土人は其頭より油を注ぎて之を禮拜す。或は之れに往々鼠を配したるものあり。日本の大黒様たる大黒天、或は象を本體とする聖天の如き、恐らくは之れが轉化せるものならむ。尙ほ此像には鉢、斧、金珠等を持つものあり。又其手の四本のものあり。二本のものもあり。

第二十九　涅槃像（石彫）寫眞版　桐谷洗鱗君藏

佛陀伽耶發掘品。第四世紀中葉乃至第五世紀笈多(グプタ)王朝作。佛陀が入滅卽ち其大般涅槃に入りしは紀元前四百八十七年乃至四百八十五年頃なり。時に拘尸那竭羅(クシナガラ)城外沙羅雙樹の下に床座を設け、佛弟子阿難(アナン)、阿那律(アナルダ)等傍に侍せり。本圖彫刻は其光景を示す。而かも此の彫刻の如く沙羅雙樹の下、遠くに靈塔を現はし、如何にも大自然が寂しく哀れに泣くが如き靜寂の感を現はすは笈多王朝作品の特色にして、且つ印度藝術の神秘的なる所以の一なり。現在我國に於て崇拜せらるゝ涅槃像に於て凡ゆる鳥獸の泣く等の光景を描くは犍陀羅、其他支那藝術の流れを酌むものなるが如し。

第三十　波羅門僧持鉢其二（木彫）寫眞版　桐谷洗鱗君藏

第二卷第二十五婆羅門僧持鉢と同一品の上面。鬱蒼たる樹木の下に多くの男女が平和に遊樂する波斯式の悠暢なる氣分を自在に彫刻し、技巧の發達驚くべきものあり。

表紙意匠　ガルダー古代踊面

毒蟲を食ひて人畜を保護すると稱せらるゝ印度教神ガルダーの古代踊面圖案。

大正十二年三月二十日　印刷
大正十二年三月廿五日　發行

編輯兼發行人　伊尾準
印刷人　友田寬治　東京市小石川區金富町十四番地
印刷所　印度藝術研究會印刷部
發行所　印度藝術研究會　東京市小石川區金富町十四番地
振替口座東京四三六八五番

不許複製

終